

## V55b すばる望遠鏡観測装置 FOCAS : VI. 直線偏光モード試験観測

川端 弘治、佐々木 敏由紀、関口 和寛、家 正則、大山 陽一(国立天文台)、海老塚 昇(理研)、青木賢太郎、稲田 素子、沖田 喜一、柏川 伸成、小杉 城治、斉藤 嘉彦、清水 康広、高田 唯史、吉田 道利(国立天文台)、大田 一陽(東大理)、田口 弘子(早稲田実業)、矢動丸 泰、小澤 友彦(みさと天文台)、浅井 良(株SEC)、ほか FOCAS 開発チーム

すばる望遠鏡の可視汎用観測装置である F O C A S (微光天体分光撮像装置)の、直線偏光モードの包括的な試験観測が、2002年6月初旬に行われた。

直線偏光モードの地上試験評価については2002年春季年会(V12b)にて報告した通りであり、ほぼ設計仕様通りの性能が得られているが、実際に望遠鏡を通して観測したのは2002年2月以降の事である。特に今回は、すばる望遠鏡を通して、標準星(点源)の偏光分光/偏光撮像、および広がった天体源の偏光分光/偏光撮像を行ったほか、直線偏光モードを使用して器械偏光の時間安定性や望遠鏡姿勢に対する安定性、ADC(大気分散補正光学系)の影響など、多岐に亘って調査を行った。通常の偏光観測において大きな障害となるような点は現在のところ認められておらず、例えばADCのIN/OUTによる偏光測定結果の変化はみられていない。講演では、6月の試験結果に加えて、2002年2、3月に行われた予備的な観測も交えた詳しい解析結果を報告すると共に、すばる望遠鏡とFOCASとが為す器械偏光特性やその安定性、総合的な偏光測定精度、および毎観測時に必要な較正観測について議論する。

なお、FOCAS 偏光モードに関する最新の情報については、すばる望遠鏡の観測装置から迎れるページに載せているので、観測準備の際にはそちらを参照して頂きたい。